

## 中学 1 年 道徳学習指導案

主題名 強い意志 (読み物資料 『木箱の中の鉛筆たち』 暁図書出版中学校 1 年)

### 資料

神津かなさんが書いている。

ニューヨークに役者の勉強に行ったかなさん。ブロードウェイに通ううち、次第に興味は役者から書き手の方へ。志望を変更して小説家を志す。日本に帰ってから物書きとして自立しようとするも、仕事来ない。たまに来た仕事も、努力して書いた割に認められない。悩んだ彼女は、父親に相談する。父は、小さい頃から音楽の才能があったと「思っていた」説明したが、実は、それは、単なる「思いこみ」であったことが後でわかる。父は、自分に音楽の才能がないと知らされてから猛烈に努力を始めた。そのことで、今は作曲家として成功していたのだ。話の最後に、ピアノの下にしまっていた木箱を取り出し、中にあった何百本もの短くなった鉛筆を見せてくれた。

才能がないと自らを嘆いていた彼女は、父親の努力の大きさに自らの不徳を恥じ、いつもくじけそうになると父の木箱の中の鉛筆を思い出しては、強い意志で自らを励ましている、という話である。

[http://www.akatsuki.co.jp/dotoku/index\\_fukudokuhon.html](http://www.akatsuki.co.jp/dotoku/index_fukudokuhon.html)

### 本時案の書き方で留意したこと

発問を明示したこと

学習活動を「外から見える子どもの姿」で書いたこと(「考える」「把握する」「理解する」などの内的な思考活動で書かなかったこと)

学習内容を書いたこと

学習内容に軽重をかけていること

- ・「・」の内容は、「手段的内容」。後に続く「」「」の内容を獲得するために必要な内容であって、ねらいにつながる内容ではない。
- ・「」の内容は、本時の必須の学習内容。各学習活動に一つ。全員が獲得する必要がある学習内容。
- ・「」の内容は、「」の次に大切な内容。評価の対象とはならない。
- ・「」本時ならではの価値観(この価値内容における本時の価値観。見方・考え方)

思うようにならないときにこそ、意志を強くもって努力することが大切なのだ。  
(つまり、順調にいらっているときは努力というほどのものではない、ってこと)

「子どもの心の動き」を学習内容と対応して書いたこと

支援は、何のために（目的）何をどうするか（具体的な方法）を含む表現にしたこと  
 共通の体験（1日1ページ）での「子どもの心の動き」を生かした支援を入れたこと  
 自己の振り返りについては、共通体験ではなく広く生活全般に開くようにしたこと

\* 共通体験だけを振り返る仕組みの場合は、共通体験をしている教科、領域で振り返ればよい

本時案のみ

(1) ねらい 自分の体験をもとに「私」の心情を共感的に理解することを通して、希望と勇気をもって着実にやり抜くこうとする強い意志を育てる。

(2) 学習過程

学習活動・学習内容	子供の心の動き	支援
<p>発問1：今までにめあてを途中であきらめた経験とその時の気持ちを発表して下さい</p>		
<p>1 「今までにめあてを途中であきらめた経験」を発表し合う。            (10分)</p> <p>・あきらめた経験とその時の気持ち            最後までやり抜くことへの関心            本時の課題</p>	<p>なかなか上達しないので、習い事（習字等）をやめた。今考えると少し後悔している。            「勉強を1日2時間する」というめあては今、守れてない。どうしても楽な方へ流れるな。簡単にあきらめない自分になりたいと思っているんだ。            自分のめあてを最後までやり遂げるために、必要な「気持ち」とはどんなことだろうか。</p>	<p>A 発表内容についての善し悪しについては言及せずに、率直に自分の失敗体験を話す子供を認めながら、次々と板書する。            B めあてを立てたときとあきらめたときの気持ちの違い(落差)を強調し、よりよく生きたいという願いを引き出した後、課題を投げかけ、板書する。</p>
<p>発問2：ぼんやり毎日を送った「私」の気持ちを吹き出しに書き、話し合しましょう。</p>		
<p>2 読み物資料を読んで、ぼんやり毎日を送った時の「私」の気持ちを吹き出しに書き、話し合う。            (15分)</p> <p>・粗筋と「私」の夢            希望や自信を失ったときの悲しさ            自分の体験との共通</p>	<p>外国で十分勉強したんだな。小説家は楽しい仕事だろうな。            「あれだけ勉強したのに、こんなに才能がないなんて・・・」「これじゃ、人気のある作品を書くどころじゃなく、日々の生活すらできない」等            自分も部活で才能がないのではないかと落ち込むことがあ</p>	<p>C 補説しながら資料を読む            D 「私」が置かれている状況を生徒の身近な事柄（部活や勉強等）に置き換えさせることで実感をもって捉えさせる。            E よく似た自分の体験をもとに想像して吹き出しを書き、理由を添えて発表</p>

点、「私」への共感的理解	る。それが職業だったらなおさらだろう。気持ちがわかる。	させることで、共感的理解を高める。
発問3：鉛筆を見た私が恥ずかしくなったわけは何だろう。話し合しましょう。		
<p>3 「私」が恥ずかしくなったのは、なぜなのか話し合う。(15分)</p> <p>父の努力のすばらしさ、意志の強さ 「私」の努力の不足と就業に対する甘え、意志の弱さ 強い意志をもつよさ (課題の解決)</p>	<p>何百本もの鉛筆を使って猛烈に勉強した父に対して恥じた。父に比べて大した努力もしていないのに、さっきの吹き出しのように弱音を吐いたことやすぐにあきらめようとしたこと、自分への甘えに恥じた。思うようにならないときにこそ意志を強くもって努力することが大切なのだ。</p>	<p>F 2 活動の「吹き出しの気持ち」と、「父の言葉」を並べて板書し、対比して考えさせるとともに、「一日1ページ」を続けている気持ちを想起させることで、強い意志でより高い目標を目指す自分たちの意志の強さや「やりがい」を再認識させる。</p>
発問4：自分の生活の中で努力を続けていることを見付け、授業の感想を書こう。		
<p>4 自分の生活を振り返り、感じたことをノートに書く。(10分)</p> <p>強い意志をもってやり遂げようとする気持ちの高まり 自分なりの課題</p>	<p>読書については、1か月2冊を目標にがんばれているな。今日学んだことを生かして他のめあても達成したいものだ。「うまくいかないときこそ努力すること」が価値あることだと学んだ。今度 のときには、そうできるといいな。</p>	<p>G 「わかってはいるができないこと」より「少しずつ出来つつあること」に着目させ、授業後の感想を書かせる。 H 今後の課題等を記述している子供を捉え提出後のプリントで価値付ける。</p>

### 授業説明

学習活動は、4つくらいにまとめ、「1 導入：課題把握」「2 展開前半：課題追究」「3 展開後半：課題追究・解決」「4 終末：自己の振り返り」のようにするとよいでしょう。3を自己の振り返りにすることもあります。その場合は、4は教師の説話程度の短いものとなるでしょう。

発問1は、課題をもたせることをねらったものです。Aで生徒の授業の参加度を高め、Bで価値への方向付けをした後、課題を提示します。いくらよい課題でも、A、Bがないと生徒が受け入れることができません。

発問 2 は、中心発問の 3 のための補助発問です。落ち込んでいるときの気持ちを共感理解させておくことで、強い意志をもつことのすばらしさを一層際立たせて捉えさせられます ( F )。生徒は「私」の気持ちを想像しながら、実は、自分の気持ちを述べているわけです。気持ちを想像するのは、一般に二つの方法があって、一つは、このような「吹き出し」に書く「内の目」で想像する方法です。D、E は共感理解のための常套手段です。そう思った理由も一緒に発表させることで体験が一層たくさん出てきます。C・D は教師主導、短時間で行うのでいいと思います。ここは、教師がかなり引っ張ってイメージを確かにさせることになるでしょう。

発問 3 は、中心発問です。気持ちを想像するもう一つの方法「外の目」です。「なぜ」や「理由」を問います。「内の目」より論理的で冷静な「気持ち理解」ができます。出てきた意見を類別しながら、最終的には、父にではなく「自分に対して」「自分の夢に対して」恥ずかしいという方にもっていきます。誰のためでもない、自分のため、自分の夢や希望、目標に対して努力することのすばらしさを感じ取らせます。F の後半は、共通体験を取り上げ、全員の参加を意図しました。一つの共通体験に閉じられた補充深化統合ではいけませんが、このように一部分共通体験で考えを深め合うことは有効だと思います。自分たちの中にある「よさ」を改めて見つめて、父のよさが自分たちの中にもあることに気づかせようというねらいです。ここで、「思うようにならないときにこそ意志を強くもって努力することが大切な気持ちである」という課題に対応した「答え」( 学習内容 ) を共通理解します。( わたしなりの資料観です。 )

発問 4 は、振り返りと自分の課題把握です。よい行動に目を向けるという振り返りにしました。導入ができていない方を取り上げたからです。小さなことでも努力している、または、努力の芽を感じるというものを取り上げさせます。些細なものでも全く構いません。「わかっちゃいるけど、できていない事実」ではなく、「できているのだけど、その意味や価値がよくわかっていなかったという事実」を見付けさせるのです。本来なら、学習内容である「思うようにならないときに努力した事実、経験」に目を向けさせたいのですが、「思うようにならなかったとき」の努力を訊ねても、十分出てこないことが予想できます。些細でもできていることを想起させて、その些細な「できている経験」でもあきらめかけたり、思うようにならなかったときがあるだろうから、そのときの気持ちを思い出したり、それを乗り越えることができたわけを捉えさせたりすることにしました。

もしも、G T に活躍してもらおうとすればここです。4 の活動で、その先生の思いを熱く語ってもらおうのがよいでしょう。同僚の先生なら、話がうまいでしょうから、数分で価値ある話をしていただけるでしょう。外部の方だとせっかくお呼びして数分では失礼ですが、同僚なら大丈夫です。その後のかわりも期待できますから、きっかけをつくるという程度でも構いません。